

渡島所報

発行日／令和5年10月10日(火)

発行者／沢田慶毅

〒049-0111 北斗市七重浜5丁目11番20号
TEL 0138-49-4325 FAX 0138-49-4327

渡島所報は管内教育の「研究」「実践」「交流」のための情報発信を目的にしています

< も く じ >

☆ 巻頭言……………p.1 ☆ 渡島教育研究所研修講座……………p.2

☆ シリーズ学校・子供 156 七飯町立七飯中学校……………p.3 ☆ 編集後記



渡島管内教育の充実に向けて

北海道教育庁渡島教育局長 山下 幹雄

この度、渡島教育研究所が管内の教育情報をまとめ、「渡島所報 283 号」として発刊されますことに、心からお喜び申し上げます。貴研究所におかれましては、長年にわたり、組織的・継続的な研究に取り組み、様々な教育課題の解決

や教職員の職能の向上に尽力いただいておりますことに、深く感謝申し上げます。

さて、人口減少や少子高齢化の進行、情報技術やグローバル化の進展などにより、人々の価値観やワークスタイルが大きく変わる中、従来の知識や経験だけでは解を見いだすことが難しい変化の激しい時代となっており、学校教育においては、子どもたちが、自らの良さや可能性を認識するとともに、全ての人を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら、未来を切り拓く持続可能な社会の創り手としての資質・能力を育むことが求められています。

そのため、各学校においては、学習指導要領に示された資質・能力を着実に育成するため、ICTを最大限に活用し、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく育成する「個別最適な学び」と子どもたちの多様な個性を最大限に生かす「協働的な学び」の一体的な充実を図り、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組んでいくことが大切です。

こうした中、貴研究所におかれましては、「指導と評価の一体化～ルーブリックを活用した授業改善～」を研究主題に掲げ、児童生徒一人一人に求められる資質・能力を育むため、学習状況を確認に見取り指導の改善に生かす「ルーブリックを活用した授業改善」に関する研修会等を開催するとともに、ICTを効果的に活用した教育の情報化の推進や場所を選ばずに研修を受けることができるオンライン研修の充実などに取り組み、研究を深められますことは、誠に時宜を得たものであり、その成果に期待を寄せているところであります。

渡島教育局といたしましては、本年度、新たに制定されました北海道教育推進計画の3つの柱「子どもたち一人一人の可能性を引き出す教育の推進」、「学びの機会を保障し質を高める環境の確立」、「地域と歩む持続可能な教育の実現」を踏まえ、渡島管内の学校、教育委員会、教育局が一体となり、「自他のよさを活かし、意欲的に学び、社会を生き抜く力を育む教育の充実」を目指して「創り出す」「身に付ける」「つなげる」を合い言葉に全力を尽くしたいと考えておりますので、関係の皆様の変わらぬ御理解と御協力をお願い申し上げます。

今後も貴研究所が渡島管内の先生方や各学校、そして様々な情報をつなげる中核的な役割を担い、今日的な教育課題を踏まえた教育研究や研修事業を展開され、それらの成果が各学校の教育活動の改善・充実に活かされることを心から願っております。

令和5年度 渡島市町教育研究所研修講座



7月27日(木)、七飯町文化センターにおいて、渡島市町教育研究所研修講座を開催しました。

今回、講師に北海道教育庁渡島教育局教育支援課義務教育指導班主査 松本了佑氏をお招きし、「学習評価と今日的な教育課題について」の講演と、当研究所の研究主題「指導と評価の一体化～ルーブリックを活用した授業改善～」に関わる提言を行いました。

提言 「指導と評価の一体化～ルーブリックを活用した授業改善～」

1. 説明

「ルーブリック」とは、絶対評価の判断基準表のことです。教師にとっては「ブレ」や「揺れ」がなくなるものであり、児童生徒にとっては学習への「意欲」と「安心感」を抱かせるものであることを説明しました。

2. 実践発表

上記説明を受けて、まず、当研究所の洪川所員は中学校1年生の数学における実践を発表しました。正負の数の小テスト、平均に関するレポート作成、授業ノートなどでルーブリックを活用し、生徒が能動的になったことや授業者側が評価しやすかったことを伝えました。

続けて、菅原所員は小学校高学年の保健体育において、大人数の表現活動を見取るためにはルーブリックによる共通認識が効果的であったことを発表しました

3. 交流

参加していただいた先生方に、自身が実際に使用することを想定したルーブリックを作成していただきました。その後、小グループになり、ルーブリックそのものや評価全般に関する悩みなどを交流しました。既に日頃から活用している先生もおり、活発に意見交換がなされました。



講演 「学習評価と今日的な教育課題について」

北海道教育庁渡島教育局教育支援課義務教育指導班主査 松本了佑氏

講演概要

- ・学習評価について理路整然にやろうとすると、必然的に緻密な授業が求められる。
- ・ルーブリックを実践することは大変だが、必要なことであり、確実に授業の質を高める。
- ・よりよい評価の実践に向けては、教師同士での評価規準や評価方法の検討、実践事例の蓄積と共有、そして評価結果の検討等を通じた教師の力量の向上が大切。



反応 参加者の声（アンケートから抜粋）

☆是非、次回も参加させていただきます。

☆ルーブリックを実際にやると子供達の意識の変容がすごくあるんだなと思いました。

☆評価基準からルーブリックをつくる方法がとてもわかりやすく勉強になりました。

七飯町立七飯中学校

七飯町立七飯中学校 加賀 重仁

私は現任校に赴任し2年目である。最近まで（今年度7月中旬頃）まで「授業改善」という言葉を使っていない。学力向上については、当然のことながら「課題」として認識している。大きな課題である。予想されていたとはいえ、本校の今年度の学力・学習状況調査の結果も芳しくない。しかし、これまでの検証・改善の取組が功を奏していないことがまさにエビデンスであり、私たち自身が教育の本質に向かう姿勢をもち、学校を「創る」強い意志を持つことが今最も必要なことであると考えている。私たち自身がそれを知っているはずである。

幸いに教育の流れが大きく変わった。学校は社会の最先端であり、「育成を目指す子供像」は明白である。この点を確実に理解できれば、学校のやるべきことは自ずと見えてくる。本校はこの約1年『学習指導要領で示されている「資質・能力」とは何か』、「学校はどうあるべきか」「なぜ各学校ごとに育成を目指す資質・能力を明確にする必要があるのか」「資質・能力の育成を目指す教育活動とはどのような活動なのか」などについて、とことん研修してきた。これ無しに授業改善は単なる「技術・形」でしかない。教育はもっと奥深いものである。学習指導要領の考え方も変わるかもしれないが、教育の営みは永遠である。本校は緒についたばかりである。「校長が代わるたびに学校が変わる」から脱却するため、変わらない「土台」を渡島の総力をもって造り上げることが極めて重要である。その上にとって校長のキャラクターが生かされる学校が、今風にいうと「サスティナブル」な学校である。渡島教育研究所に期待しつつ、そのために最後まで尽力したい。



生徒考案の横綱引き
(縦割り7チームによる体育大会)



縦割りの道徳科の授業
(いじめの4層構造について)

編集後記

例年であれば、渡島教育研究所が主催する大きな催しを二つお伝えする機会でした。「研修講座」については2ページの通りですが、「渡島市町教育研究所員研修会」が荒天により開催できず、予定されていたテーマの「不登校」を紙面に残すことができませんでした。今後、形を変えて情報発信をしていければと思います。(文責 渡部)

E-mail o-kenkyu@lilac.plala.or.jp

ホームページ <http://www9.plala.or.jp/oshima-kenkyusho/>

渡島ネットワーク <http://Quickconnect.to/o-kenkyu>



このQRコードから
渡島ネットワークに
アクセスできます！

テーマ：「指導と評価の一体化」の実現に向けた授業改善と検証

- 1 ねらい 子供一人一人が意欲をもって積極的に取り組む，わかる授業づくりが求められている。渡島の課題を明確にし，提言や授業研究・研究協議を通し，指導法の改善や教職員の資質向上を図る。
- 2 研究主題 「指導と評価の一体化～ルーブリックを活用した授業改善～」
- 3 参加対象 渡島小中学校教職員 30名以上を期待
- 4 日時 令和5年11月14日（火） 13時45分～16時00分（受付：13時30分～）
- 5 場所 七飯町立大中山小学校 七飯町大中山2丁目1番5号 電話 0138-65-2225
- 6 日程

13:30	13:45	14:05	14:50	15:00	16:00
受付	説明・移動	授業公開	移動・休憩	協議・演習	

7 内容

- (1) 説明
 - 挨拶 渡島教育研究所員 足立 雅行（北斗市立市渡小学校教頭）
 - 説明 渡島教育研究所長 沢田 慶毅（北斗市立浜分小学校長）
 - 渡島教育研究所員 石井 望（北斗市立浜分小学校）

授業を参観する際のポイントと，記入していただく演習シートについて説明します。

(2) 授業公開

授業 小学校6年生 体育科「跳び箱運動」

七飯町立大中山小学校 教諭 菅原 俊介（渡島教育研究所員）

神野藤 均

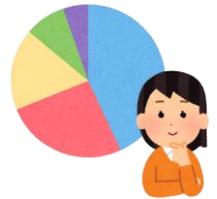
山崎 志穂



参観した授業をもとに，参加者の皆様に，ルーブリックによる評価を体験していただきます。

(3) 協議・演習

- 渡島教育研究所員 石井 望（北斗市立浜分小学校）
- 渡島教育研究所員 渡部 知也（北斗市立石別中学校）
- 渡島教育研究所員 渋川 奈美（七飯町立大中山中学校）



8 申込み方法について

- (1) 参加申込については，各学校から直接，渡島教育研究所へお願いいたします。
- (2) 締切り日は，令和5年 10月 30日(月)厳守でお願いいたします。
- (3) 申込みは，FAXかメール，または左のQRコードからお願いいたします。

FAX：0138-49-4327 mail：o-kenkyu@lilac.plala.or.jp

※ FAXの場合は，下記にご記入の上，そのままご送信ください。



氏名	職名	学校名	備考